

名古屋芸術大学グループ 通信

63
December
2024

はい！それ、
ぜんぶ、
名芸大です！！

マルチに活躍する
学生12の“ホンネ”

それって
芸大でできるの!?

に生きて
かったのに

頼まれたら
やるしかないだろ!!!



名古屋芸術大学グループ

<https://www.nua.ac.jp/>

■名古屋芸術大学／大学院：音楽研究科 学部学科：芸術学部 芸術学科 ■名古屋芸術大学附属クリエティ幼稚園
美術研究科 音楽領域 舞台芸術領域 ■濠洲幼稚園 ■たきこ幼児園 ■たきこ第二幼児園に
デザイン領域 美術領域 芸術教養領域 ■愛知保育園 ■幼保連携型認定こども園 森のくまっこ
人間発達学研究科 教育学部 子ども学科 ■名古屋音楽学校



それって芸大でできるの!? はい!それ、 ぜんぶ名芸大です!!

マルチに活躍する学生12の“ホンネ”

サブカルチャーといわれてきたものがメジャーになって久しいです。
日本のアニメーションが“Anime”と呼ばれ、映像様式となり世界中で観られるようになりました。
アニメに影響を受けたゲームやイラストなども数多く、
スタイルのひとつとして認識されているといえます。
では、アニメのスタイルを取ったイラストは、“アート”といえるでしょうか?

音楽も同じで、文化や教養としてのクラシック音楽に、音楽とは何かを解体したJAZZが加わり、
このあたりまでが音楽分野の“アート”として扱われてきました。

では、ポピュラー音楽はどうでしょう?
ストリートから生まれたヒップホップは? ラップは? はたまたレコーディングすることは?
これらも“アート”といえるでしょうか?
声優の仕事は“アート”? 舞台に立つことや舞台を作ることは?? ライブハウスは???

これらを学ぶ学生たちに、今どんなことを考え、どんなことをやっているのか聞いてみました。
対立する境界と同時に混ざり合う境界、その狭間で揺れ動き翻弄される現代人の声でもあります。
大学で学ぶ学生の“ホンネ”を聞いて、何を感じますか?





制限があることを、 今では楽しく感じます

—どうして舞台美術へ？

小さい頃からずっと服が好きで、高校は被服科に行っていて、自分で服を作り、その服でファッションショーをするんです。自分たちで構成を考えて実際にやったんですけど、ファッションショーをやってみて、私、舞台という世界がすごく好きなんだなと思いました。そのときは服ですけど、一個の劇場のなかでお客さんと対面して、作品やなにか見せたい表現を共有する、その空間そのものが素敵だなと思ったんです。それまでファッションのことばかり学んでいたわけですけど、違うことに興味が出てきて、先生に相談したところ、ちょうど新しく舞台芸術の領域ができると紹介されました。服を作ることは違うことを勉強したいという気持ちが強くなったんです。

—第1期生だと、たぶん先生もいろいろ手探りだったりすると思うけど、どうだった？

たぶん、結果的には後輩よりも学ぶ機会がすごく多かったですね。例えば、私が入ったときには、まだスタジオも幕もなにもなくてどうしようかとなったときに、「小野ちゃん縫えるじゃん！」ってなって(笑)。ドレープカーテンと、うしろにある白い幕は、私が自宅に持ち帰ってミシンで縫ったものなんです。大きくて部屋ではとても広げられないので、想像で縫い付けて1枚にしました。箱馬もなかったので、自分たちで作りました。1期生はもちろん苦労はあったんですけど、その分、自分たちでやらなきゃいけないという状態だったのもあって、学ぶ機会も作る機会も多かったなって思います。

—舞台美術って、やってみてどう思った？ 最初思っていたことと実際が違ったってことはない？

最初はやりたいことのほうが強くて、こんなデザインの舞台を作りたいとか、私だけでなく、ほかのみんなも強く思っていて、これをやりたいのに結局できないねみたいなことが多くありました。でも、やっていくなかで、やっぱり演出さんとやり取りして希望を汲み取って、そのうえで自分たちができる表現に起こすことが初めのうちはすごく難しかったです。演出さんの希望、照明、音響とのバランス、いろいろ制限があるなかで、自分たちの作品に対する考えを形にする、今ではすごく楽しくできていると思います。

—鳴海先生の舞台を手伝うようになるのは、な

にかきつけがあったの？

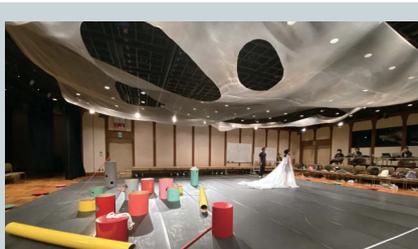
最初は、浅井先生(浅井信好講師)のやっている「パフォーマンスキッズ・トーキョー」のダンスワークショップに舞台美術としてインターンに入って、子どもが舞台に落ちている布をドレスのようにまもって出てくるみたいなの、舞台衣装とも重なる舞台美術っていうのを作りました。それで、私はあらためて布を触るのが好きだなって気づいて、それからとはあることに私は舞台衣装がやりたいと先生に言っていて、「じゃあ、やってみる？」とお声がけをいただいたんです。

—それで第七劇場の公演を担当するんだ。不安はなかった？

不安よりもワクワクのほうが強かったので大丈夫でした。でも、実際に現場に入ると、舞台美術は学んでいても、衣装の管理の仕方や、デザインを考えて買いつける方法、スケジューリングの仕方なんかを誰からも学んでないので第七劇場の役者さんに一緒になって考えていただきました。こうしたらいいんじゃないかというのをそのまま生かされたなって思いますし、すごく勉強になりました。

—やりきって、どうだった？

衣装として入ったんですけど、舞台美術を学んでいたんで、そのことが生かされたかなと。例えば衣装も、どういう照明を使ってどんな当たりをしているのかとか、基本的なことを舞台美術の観点で学んでいたんで、すごく生かせました。私の領域にかかわらず、芸大って、やっぱり先陣を切った人の勝ちというか、その人がいろいろな機会を総取りするっていうふうに思います。言い方はおかしいかもしれませんが、やろうとする人ほどやれるっていうのがありますね。



インターンとして参加したパフォーマンスキッズ・トーキョー、ダンスワークショップ「●これなんだ」から。ここでも布を大きく使った



01

舞台芸術領域

舞台美術コース 4年
小野花弥さん

鳴海康平准教授が構成・演出を手掛ける第七劇場の公演「三人姉妹」(2023年)、「ヘッダ・ガーブレル」(2024年)で衣装を担当する。「ヘッダ・ガーブレル」では公演のすべての衣装を担当し、脚本・役者に合わせた衣装を考案。既製品のセレクションおよび手直しなども行う。

「三人姉妹」から。原作には登場しない「毛皮」という役のための衣装。通気性を良くするために内側をメッシュにするなど工夫されている





もっと、もっと、映画を知りたい

—ミニシアターって、高校生が行くにはちょっと敷居が高いじゃない？好きになったきっかけは？

高校2年生になるタイミングでコロナ禍になって、コロナ禍の前に出来上がっていて楽しみにしていた映画があったんですけど、なかなか公開されなくて。コロナ禍が明けたタイミングで公開になったんですけど、それがミニシアターだったんです。今泉力哉監督の「街の上で」という作品で、それを観て映画がすごく好きになって、そこから数珠つなぎというか、映画館に通ううちに名古屋シネマテークに辿り着きました。

高校生のときからやっぱり映画が好きだったので、映画制作の方向に進みたくて、もういろいろ調べました。調べているうちに、制作だけだと幅が狭いというか、もしかしたらそれ以外のことにも興味が出るかもしれないと思って、一本に絞ってしまうのはちょっと怖いなど。そこで、リベラルアーツは映画の先生もいるし、芸術大学だし、いろいろなことを多方面に学べると思ったので選びました。オープンキャンパスに来たときに映画の先生がいるというのを聞いていました。入学してからは、先生は映画に関してはもちろんですけど、ほかのことに関してもなんでも知ってるし、いろいろ映画の話ができて、話の合う人がいてすごくうれしいです。映画以外の授業でも、だいたいおもしろいですね。芸術に関することばかりなので、知識がすごく広がったって思います。画家だとか、有名な作家だとか、違うところで話が出たときに、うん、わかるみたいな、つながったみたいな、知識欲が満たされたような気持ちになります(笑)。

02

芸術教養領域

リベラルアーツコース 3年
鈴木美砂さん

クラウドファンディングで資金を募り名古屋シネマテークの跡地にオープンしたナゴヤキネマ・ノイ。その復活を手伝い、クラウドファンディングのチラシ、劇場のロゴなどのデザインを谷野大輔非常勤講師とともに手がける。現在は、インターンシップで働いていたシネマスコアの手伝いを行う。映画とミニシアターへの深い愛情を持つ。



ナゴヤキネマ・ノイ

—そのシネマテークがなくなることになるんだよね？

すごく悲しかったですね。そのときは大学2年生で、自分が大学生の間、あと2、3年くらいは通えると思っていたのに。映画館に行くことを楽しみに生きていたので、ひとつでも映画館がなくなるというのが悲しかったですね。

—それでナゴヤキネマ・ノイのクラファンを手伝うことになるんだ

酒井先生(酒井健宏准教授)がもともとシネマテークのスタッフとして働いていたことがあって、つないでくれました。デザインを教えていただいている谷野先生と一緒にやることになりました。ほんと、お手伝い程度で済んだことはしていないですよ。

それから、名古屋駅のシネマスコアにインターンで行って、インターン期間は終わりましたが、そのままお手伝いで月に何回か働かせてもらっています。シネマスコアも大好きです。

—そもそもなんでリベラルアーツに入ったの？

月に一度、東キャンパス9号館リベラルアーツスタジオで、映画上映会を主催。酒井健宏准教授の解説も楽しい



—なるほど。入学してからいろいろ授業があるけど、映像関係はそれほどたくさんあるわけでもないでしょう？

そうですねえ、映画を撮りたかったし、制作したかったし、うん、なんか違うかなと思ったんですけど……。なんでですかねえ、制作を考えるには観ることが重要だと思って、焦らなくていいから、とりあえず映画館へ行って映画を観て、これからのことは考えようと思って。映画のほかは、学芸員資格の授業を取って資格のために学んで。それから、個人的に月に1回学校内で映画上映会を開催していて、観たい人が自由に参加して、酒井先生に解説してもらって、観終わったあとに感想を言い合ったりすることをやっています。

—上映会おもしろそう！ 今後はどんなことをやりたい？

卒業までにはなにか作りたいですね。まず企画書を書くようなことから、ちょっとずつですけど。卒業後は、もっと映画制作を習ってみたいんで、どこか大学院か、映画学校みたいなところとか。まずは、卒業までになにか作るころから頑張ってみます。



谷野大輔 非常勤講師とともに、ナゴヤキネマ・ノイのロゴマーク、クラファン支援のためのチラシをデザイン。目標額を上回る資金が集まり、2024年3月、無事にオープンを果たす



目標をはっきりもてば 心躍る学校

ー音楽総合コースで入って、録音が中心になっていったという流れなのかな？

今は音楽総合コースなんですけど、もともとはサウンドメディア・コンポジションコースで入学しました。中高6年間吹奏楽をやっていたのですが、楽器を続けられる気がなくて、それでも音楽を仕事にはしたいと考えていて、じゃあ録音とか音響ってどうなんだろうと。オープンキャンパスで学校を見て選びました。入ったら、長江先生(長江和哉教授)に良くしてもらって、録音の道にどっぷりです。でも、2年生になるタイミングで、やっぱり楽器も吹きたいなと思い、音楽総合コースならサウンドメディア・コンポジションコースも弦管打コースも取れるし、いいかなと思って音楽総合コースへ変わりました。

ーレッスンの授業とか増やせるようになるんだよね？ 変わってみて、なにが変化はあった？

やっぱりレコーディングって、エンジニアだけで成り立つものじゃないじゃないですか。奏者がいないと。自分が奏者目線に立って、奏者の気持ちを知ることが大事ななと思いました。それから、僕はクラシックを中心にレコーディングをやっているんで、クラシックのレッスンや、クラシック音楽ならではの吹き方とかフレーズ感とか、そういったことを勉強できたことがよかったですね。音楽理論とその楽器特有のフレーズングをレコーディングで生かせるのがいいんじゃないかなと思っています。

弦管打コースの授業を取ったことで知り合いが増えて、レコーディングを頼まれることが増えました。いろいろできることが増えたのはとてもよかったです。半面、弦管打コースとサウンドメディア・コンポジションコースで両立するのはすごく難しいなと思いました。制作って、レコーディングが主で時間がかかるじゃないですか。楽器も練習しなくちゃいけないし、どちらかに比重をかけるともう片方が疎かになるし、そこが大変です。どうにか頑張って、つじつまを合わせてきました。

ートーンマイスターの勉強でドイツへも留学したんだよね？ ドイツ語は大丈夫だった？

半年間行って来ました。語学は1年間やって、検定を受けたんです、何回か。でも、1年やそこらじゃ落ちるんですよ、普通に(笑)。なんとか半年乗り切りましたね。大学では基本的にドイツ語なんですけど、わからないところは英

語で質問したりしました。あと、ドイツで国内を旅行していると、日本人顔なので英語で話してくれることが多かったですね。ドイツ語と英語がスイッチできなくて、なんだっけ?みたいなことによくなくなっていました。僕は、このドイツ留学が初めての海外で、本当に慣れないことばかりで、大学のコースのコミュニティに入るのもすごく大変だったんですけど、頑張ればなんでもできるなと、いろいろ動じなくなった気がしています。

ーレコーディングに、演奏に、ドイツ留学、盛りだくさんだね！ 入学したときには考えもしなかったでしょ？

ぜんぜんイメージしていなかったです。2年生のときにあったトーンマイスターワークショップ、フローリアンさん(フローリアン・B・シュミット氏)に来てもらったやつですけど、それに参加してやっぱり素晴らしいなと。音楽的な知識もそうだし、技術もすごくいいなと思いました。トーンマイスターの勉強をしたいということももちろんありますが、クラシック音楽をやっているからには、本場で音楽を聴きたいというのもあり、楽器は留学に行けるほどの腕前ではないので、ドイツへ行くのなら今のタイミングしかないと思って行きました。

ー音楽総合コースに転籍して正解だった？

音楽総合コースはいろいろなコースが取れるっていうのはあります。でも、こういっただけなんですけど、雰囲気はゆるい(笑)。いろいろ自由で、自由すぎるので、自分でやりたいことを探して、それを目標にやらないと、なにをやっているかわからなくなりそう。目標をはっきりしていると先生たちもサポートしてくれるし、自分の探していることを見つかけられるとすごく楽しいコースだと思いますね。



「OTOTEN 2023」では大学でセミナー登壇。中村さんは2024年にもAES日本学生支部から登壇、イマージョオーディオの録音作品を発表



03 音楽領域 音楽総合コース 中村颯汰さん

音楽に仕事としてかかわることのできる録音や音響を学ぶため、サウンドメディア・コンポジションコースに入学。その後、続けてきた楽器演奏(テューバ)もさらに理解を深めたいと、音楽総合コースへ転籍。録音を軸に、奏者についても理解を深め、演奏のレコーディング、制作、ライブ配信などを行う。日本オーディオ協会のイベント「OTOTEN」では、2023年にレーベル「NUA Records」の立ち上げとDolby Atmosで制作した録音についてのプレゼンテーション、2024年には加入するAES日本学生支部から活動を紹介するプレゼンテーションを行うなど、2年続けて登壇。



「OTOTEN 2024」



「OTOTEN 2023」



留学前からの円安で生活費の確保が大変だったとか。「音楽のほか、美術館もたくさん観てきました。本物に接することはすごく大事ななと思います」



マンガ家になる



04

デザイン領域

イラストレーションコース 3年
ゴージータオさん

ゲーム好きが高じ、日本語版しか発売されていないゲームをやりたくて日本語を学び始め、日本語でマンガも読み始める。今度はマンガ熱が高まり、マンガ家になりたくてシンガポールから来日、イラストレーションコースに在籍マンガ漬けの日々。ブックオフは天国、欲しいものは概ね買ってしまっただとか。今ではマンガ誌の担当編集が付き、夢の実現へ邁進中。

—どうして日本に行きたいと思ったの？

中学生の頃から、日本のマンガやゲームが好きで、それで日本語の勉強を始めました。最初はゲームでしたね。日本限定発売のゲームがやりたくて。「ファイアーエムブレム」のシリーズは最初の頃は日本でしか発売されていないから、それがきっかけですね。「ファイアーエムブレム」、「ペルソナ」、ペルソナは3、4、5、ロイヤル、ゴールド、リロード、全部やりました。それから「メトロイド」とか、好きなゲームはたくさんありますよ。

—マンガは？

最初に読んだのは「ドラえもん」、8歳の頃。誕生日プレゼントで全巻、ボックスセットでもらいました。めちゃめちゃよかったです。もう何百回と読み返しました。それから少年漫画に移って行って「NARUTO-ナルト-」、ハマったのは「聲の形」、「東京喰種トーキョーグール」……、マジ多いです。トップ3は、「寄生獣」、「東京喰種トーキョーグール」、「聲の形」です。

—ゲームとマンガ、直接的にはゲームがきっかけになってるわけじゃない。でも、イラストレーションコースに行くんだ？

うん、ゲームとマンガ、いや、マンガのほうがいいかな。マンガとアニメへの関心が強かった。ひらがなを勉強する直接のきっかけはゲームだけど、より勉強しようと思ったのはマンガがきっかけかな。マンガがやっぱりよかったですね。日本でゲームを作っている会社へ就職するにしても、イラストで受けたほうが良いように思います。イラスト

を描けるようになりたいんです。イラストレーターの仕事はたくさんあると思います。

—それで、名古屋芸大に決めたのは、なにか理由はあったの？

シンガポールで日本語の塾へ行っていて、そこに名古屋芸大のチラシみたいなのがあって、ここがいいんじゃないかと。ほかの学校という選択肢もあったんですけど、コロナ禍になってオンライン試験やっている大学がほとんどなかった。名古屋芸大ぐらいでしたよ、オンライン試験があったのは珍しかったです。

—日本に来るとき、心配はなかった？

あんまりないかな。1年生のときは日本語大丈夫かなというのはありましたけど、ぜんぜん大丈夫でしたね。ふつうに、思ったより楽しいですね。オタク文化も好きだし、楽しいです。高校は芸術系の学校だったんですけど、オタク文化がぜんぜんなくて、ダメでした。その頃は、マンガみたいのが描きたくてイラストもやっていたんですけど、ファインアートしかやらずに、成績も悪かったです。シンガポールでは、アニメ好きな人もまだそこまで多くないし、オタク文化とかはまだちょっとキモいと思われる、そこから逃げたんです(笑)。

—今では、出版社の担当さんが付いてるってことだけど、なにがきっかけ？

どうやったらマンガ家になれるか、イラストレーションコースの先生に聞いたら「じゃあ、持ち込みですね」といわれ、講談社の少年マガジンへ持ち込みをしました。そこの相性がいちばんよかったですね。しばらくして電話がかかってきて、いい結果でした。自分の描いているのは、ジャンルでいえばアクションかな。バトル系のマンガ。今、新人賞の原稿を出していて、まだ言えないんですけど、けっこういい感じみたいです。

—マンガとは直接関係ないことも授業でいろいろあるじゃない？ もうマンガだけでいいんだけどみたいにならない？

たしかにマンガの方向性とは微妙に違う。でも、画力を上げるチャンスがあるのはプラスポイントです。絵が好きなら、おすすめです。いろいろやってみるのが楽しい。僕の場合は、自分のマンガが本気で、授業は休みのテンションで課題をやってる感じです(笑)。





好きな方向性で やれるからおもしろい

-ライブハウスではどんなことをやっているの？

スタッフとしてなんでもやってますよ、受付をやったり、バーカウンターに入ったり。僕がAdobeのIllustratorを使えるもんですから、イベントのフライヤーを作ったり、告知画像とかそういったものを作ったりもしています。

-いつ頃からアルバイトを始めたの？

去年の6月に「RADmini」がオープンしたんですが、オープニングスタッフとして入りました。もともと別のライブハウスの募集があって面接に行ったんですけど、やりたいこととちょっと違って。裏方っぽい仕事をやりたかったんですけど、そこはバーカウンターだけの募集だったんですよ。看板を作ったり、タイムテーブルをまとめたり、パスを準備したり、そういったもって演者さんと接する仕事に興味を持っていて、そういうことをやりたいなと思ってたのに、バーカウンターだけしかない。その面接で店長さんと話していたら、別の店がオープンするみたいだからそこへ行ってみたらといわれ、今のところに辿り着きました。

-なんで裏方に興味？ ふつうバンドやったり、演者へ向かうじゃない

高校生の頃からライブハウスに通うようになって、通っているうちにライブハウスのスタッフさんと話すようになり、興味が出てきたんですよ。楽器はあまり得意じゃなくて、そういうこともあって支える側です。家でギターを弾いたりしていましたが、その程度で、バンドもやっていませんでした。どうやったら音楽とかかわっていきけるかなと考えたとき、支える側ならいけるんじゃないかな、じゃあ裏方かなと。

-そこからリベラルアーツコースに行くわけじゃない？ きっかけは？

リベラルアーツっていう横文字がカッコよすぎて、なんなんだこの横文字は！と(笑)。それで、オープンキャンパスへ行っただんですけど、先生と話したとき、なんかちょっと変わってるんですけど、めちゃくちゃおもしろい！ 茶谷先生(茶谷薫教授)だったんですけど、なにを聞いても返ってくる。すげえ！と思って、それが決め手になりました。裏方希望で音響のコースとかもオープンキャンパスでは見ていたんですけど、専門的過ぎるより、いろんなことを知っているほうがおもしろいかなと。特定分野をめちゃ深めるのではなくて、いろいろなこ

とに触れながら知識を広げていくといったことを説明してもらって、最終的にリベラルアーツにしました。

-入ってみてどうだった？

けっこう、ちゃんとおもしろかったですね。一番初めにサウンドリテラシーとか、ちょっと曲作ってみようかみたいな授業があって、リズムとか学びながら、Macbookにデフォルトで入っているGarageBandを使って作って、自分のギターを入れてみるとか、自由度も高い授業で。リベラルアーツの授業は好きなことを好きな方向性でやれるからおもしろい。どんどん進んでいったら、IllustratorとかAdobeのソフトに触れる機会が増えてきて、Illustratorも楽しくなっちゃいました。もともと僕、絵が描けないんですよ。ヘタクソなんですけど、そんな僕でも形とかでなんとかなっちゃうし、どうにか表現できる。それで、2年のときにレビュー展のポスターを作ったんですよ。それをほかの大学に行ってる友達が見たときに「すげえ！」って反応があって、もしかして楽しいだけじゃなくて評価を得られている？と思ひ、なんかけっこううれしくて。じゃあ、もうちょっと頑張ってみるか。そうやっていくうちにフライヤーを作るようになっていました。

-4年だけど、卒業制作・卒業論文は？

まだこれからなんですけど、ライブハウスには集まりますが、その理由を調べようかなと思ってます。なにを思ってライブハウスに来るのかとか、アンケートがやっと完成するところです。長めの文章を書くことが苦手で、高校時代にもっと本に触れてきたらよかったと思いますよ。まだこれから中間のプレゼンなんて、ダメ出しされそうです(笑)。

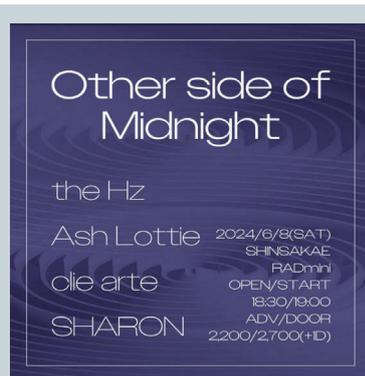
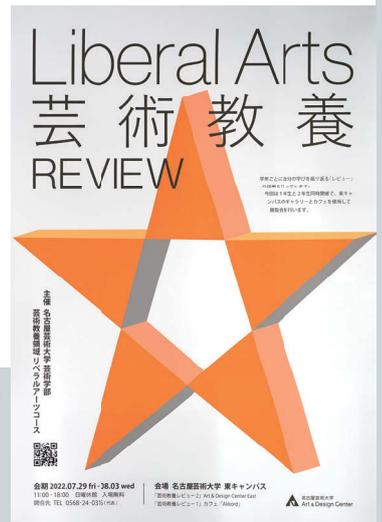


05

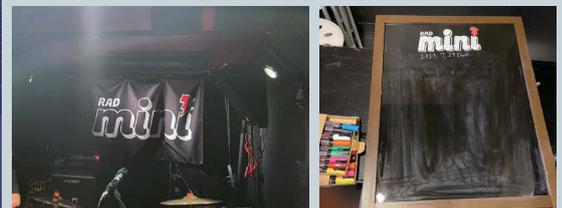
芸術教養領域

リベラルアーツコース 4年
竹内将登さん

高校時代からライブハウスに通い、スタッフとしてかわりたいて考えていたという。現在は、名古屋市新栄のライブハウス「RADmini」にスタッフとしてかわり、フライヤーなどの制作も行う。ライブハウスという場所と同時に、インディーズバンドを発掘して広めることも楽しむ。箱と音楽、そのどちらにも魅了され、これからも何らかの形でかかわっていきたいと模索中。ライブハウスによって、壁、床、照明、ステージ、音が違うことも魅力といい、音楽と同時に演出や装置にも関心を寄せる。



ライブハウス「RADmini」では、フライヤーや看板の制作も担当。その経験が、芸術教養領域レビュー展のポスターにも活かされた



“遊ぶ”ように 作品を作りたい



ー卒業制作もコマ撮りアニメを制作すると聞いたけど、もう作り始めている？

はい。でも、まだぜんぜんできてなくて、前期に考えていたアイデアがあったのですが、ちょっとナシかな？ってなって。作っていて、これじゃ楽しくないかなと思って、考え直したので。今は、まだゼロです。

ーMCD(メディアコミュニケーションデザインコース)はどんなことやっていたの？

もう、ずっとコマ取りばかりやっていました。MCDを選んだのは、いろいろできるというのが一番いいかなと思ったからです。大学に入るタイミングで絵本を出すことが決まっていたし、コマ撮りもやっていたので、なにかに絞るよりはいろいろやりたいなと考えていました。MCDでは、「こういうことをやりたいんだったら、もっとこういうやり方がいいよ」みたいなことがいっぱいありましたね。その分野の専門の先生に直接教えてもらえるのがいいです。いろいろなものを一個一個、いいかげんではなくちゃんと作る、そこがいいですね。

それでなんですけど、体験してみて、自分はデザインに向いてないと思いました(笑)。でも、そのことを自覚できたことが逆によかったかなと。版画とか、Tシャツ作りとか、体験したことは楽しくてよかったですよ。

ーいやいやいや、印刷のこととかいろいろなこと、これから仕事やっていく上ですごく大事よ。役に立つこといっぱいあるでしょ！

そうですね。考え方みたいなのはすごく変わったなって思います。展示するのに先生と相談するんですけど、自分で考えるのは、なんというか、自分が作りたいものしか考えていなかったなとわかりました。コミュニケーション

デザインなんだから、もっとコミュニケーションを取れるやつじゃないと、とよくいわれます。観てくれる人に向けたものを作らなきゃという意識はけっこう大きくなったかなと思います。

ー高校時代から作家として自分の作りたいものをしっかりやってきて、コミュニケーションデザインでは、ものすごく違う考えと衝突したって感じなのかな？

人のための作品作りなんですけど、自由さがなくなったかなって感じもして、最近はそのあたりで迷っています。以前は、自分の作りたいように作って、テーマとかそんなに深くなくても、ただ作りたいから作るみたいな感じだったんですよ。それが、これじゃ浅いとか、これじゃメッセージ性がないとか、考えるようになってちゃって。それはそれで大事だと思うんですが、そういうふうな考えちゃうことで苦しくなっているところはあります。もうちょっと遊ぶような気持ちで作品を作りたいなと思っています。

それから、自分が映像を作っているからということもあるんですが、カメラワークだったり、映像の色味だったり、これをこうしたらこういう意味になるよみたいな映像技法について、もうちょっと知りたかったですね。

ー卒業制作はリセットしちゃったけど、どうするの？

アイデアはあって大筋は決めているんですが、まだ絵コンテを書き終わっていないんです。これからコマ撮りすることを考えると、10分以内の長さにとめたいんですけど、ああ、来週、中間のプレゼンなんですけど、間に合うかなあ…。

06

デザイン領域

メディアコミュニケーションコース 4年
樋廻里彩さん

高校時代に制作したコマ撮りアニメ「月に一度の秘密のパン」が、自主制作アニメ・コンペティション「Highschool Animation Competition2020」で奥田誠治賞を受賞。また、絵本「ちいさなオムライス」が「第5回絵本出版賞」優秀賞を受賞。2019年「DigiCon6 JAPAN」Youth審査員特別賞受賞(どこいった?カエルのこども)、「NAGOYA NEWクリエイター映像AWARD」短編部門にて2022年に準グランプリ(吸血鬼の夢)、2024年はグランプリ受賞(NO NAME, WinDOW)と、多くの実績をもつマルチクリエイター。卒業後は地元三重の広告制作会社で働くことに。



Hibari's animation
(YouTube)



NAGOYA NEWクリエイター
映像AWARD



過去作品はYoutube「Hibari's animation」で配信中。自宅内のセットで1コマずつ撮影。街のセットは、2024年の「NAGOYA NEWクリエイター映像AWARD」に応募の『NO NAME, WinDOW』。制作に1年近くかかったそうだが、なんと短編部門にてグランプリを受賞！



「ぼちゃ&ちゅんちゅ」。
キャラクターデザイン
もすべて自作



絵本作家デビュー作となった「さるシェフのオムライスやさん」





やっぱり 声優になりたい!

ー仕事は順調? あいかわらず元気にやってる?

はい、やっています! 以前と違うのは、ポッドキャストをやり始めました。森林について知ってもらうためのもので、専門家の方が毎回来て下さり、真面目な話からアロマ作りの体験など、森や木を身近に感じられるような内容となっています。それから、日本赤十字のイベントでMCをやらせていただきました。タレントの大倉士門さんと若い人に献血について知ってもらうというテーマのイベントで、トークショーをやらせていただきました。どちらも真面目な内容なんですけど、親しみを持ってもらったり、身近に感じてもらったりできるようにと思ってやりました。

ー堅い仕事してる! 司会・タレント業じゃない? すごい!

そうですね! 今までで一番堅い仕事でした。声優アクティングコースに入って、1・2年生のときにナレーションの授業があって、それまではラジオでフランクに話すということをやってきて、かっちりした文章を読むということがなかったんですけど、ナレーションの授業でCMのナレーションとかを勉強させてもらって、そのおかげです。今もラジオでCMもやらせていただいたりしていますが、授業を受けたことで、そうしたナレーションのお仕事もできるようになったかなと思います。それから、演技ですね。自分を表現する上で、それまではただやりたいことをやっていた感じだったんですけど、音響監督をされているハマノ先生(ハマノ カズゾウ准教授)の授業で、どういう表現が求められているかなどのお話を聞いて、自分がただ好きなことをやるのではなく、相手側のことを考えるように変わりましたね。

ー大人になってる(笑)! 仕事の幅も広がって順調だし、就職の心配もしなくていいし、このままやっていく感じ?

でも、やっぱり目標は声優なので、今やっているラジオももちろん声の仕事なんですけど、やっぱりやりたいのはアニメーション! なので、本来の最終的な目標とは少し違った感じになっているんです。卒業したら、もう本当にすべてを捨てる覚悟で上京しようと思っていて、そのためには事務所をと思っていたところ、ありがたいことに、この8月から東京のアクロスエンタテインメントという事務所に所属できることになりました。上京するという話もし

たので、本格的に声優を目指して頑張ろうと思っています。これまで身につけたものを全部使って、全力でできることを表に出していこうと思っています。

ー声優アクティングコースに入ってよかったことは?

声優になりたいと思声優アクティングコースに入りましたが、初めの頃は一人でごうりたいなと考えている夢だったんですが、同じ夢を持っている友達と話したり、価値観を共有したり、友達の目指している理想とかを聞いたりしているうちに自分も変わりましたね。私はミュージカルも好きで、出てみたいと思ったこともあったんですけど、授業を受けたり、仕事をやったりしていくなかで、しっかりと声優一本でと覚悟も決まりましたし、より現実味が増しました。友達と一緒に授業を受けて、一緒に考えて、自分の目指すものがだんだんはっきりしてきました。自分の声質では主人公を支えるような役柄もいかなと考えると迷うところがあったんですが、やっぱり主人公で輝きたいです! もっと演技の幅を広げたいと思、いろいろとやらせてもらっていますが課題がいっぱいです。卒業公演では悪役を演じるので、今、「不気味」をめっちゃ研究しています! 難しいですけど、いろいろな役を演じられるマルチな声優が目標です。



07

音楽領域

声優アクティングコース 4年
Hillaryさん

高校時代から瀬戸市のコミュニティ FMでラジオパーソナリティとしてデビュー。2022年からZIP-FMナビゲーターとして活躍中。ZIP-FM「GENZ(ジェネジー)」、ポッドキャスト「WOOD CAST ひらりと森の木漏れ話」を担当。



GENZ
(ジェネジー)

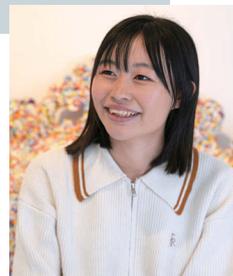


WOOD CAST
ひらりと森の木漏れ話



ナビゲーターを務めるかたわら、オーディションも受けているのだそう。「ちょこちょこオーディションを受けていますが、難しいですねえ」。声優事務所に所属するも、まだ「預かり」という準所属。夢の実現に向けて踏み出したところ

教育も音楽も



ー先生になりたいと思ったのはいつ頃から？

幼い頃から先生に憧れがあって、幼稚園のときには幼稚園の先生になりたい、小学生になると小学校の先生になりたいって思っていました。現実的に小学校の先生になるって決めたのは中学生のときです。中学校の先生がすごくいい先生で、この職業をやりたいと思いました。英語の先生で、授業はおもしろいし、私は英語が嫌いだったんですけど、先生のおかげで好きになりました。誰に対しても公平で、そんな姿にも憧れました。

もっとレッスンの時間を取れるように希望は出しています。

ー絵本の読み聞かせサークルにも参加しているんだよね

これは2年の終わりに始めたばかりで、私の活動期間としてはまだすごく短いんです。ときどきイベントに出演させてもらっていて、学校の「にこにこワークショップ」で読み聞かせをやったりしています。

ーピアノに、フルートに、読み聞かせ、「春を呼ぶ芸術フェスティバル」でも大活躍だね。練習は大変だった？

今年は実習があって、授業もけっこう詰まっているので、そんなに時間は取れなかったんですけど、練習しました。演奏会の前に週3回くらい合わせたりとか、そんな感じですね。大学に入ってから、日常的には練習の時間が取れないので、どうしても直前に集中して、となりますね。

ー緊張した？

もともとあんまり緊張しないタイプみたいで。実習とかもあまり緊張することもなく、読み聞かせのイベントも楽しめばいいかなって感じでやっています。去年の夏は「サマーコンサート」で伴奏してもらってフルートを吹いたんですけど、これはけっこううまくできたかなって思っています。

ー教育と音楽、やりたいことがしっかりできた？

友達も3免(小学校教諭、幼稚園教諭、保育士)が取れると聞いて入ったけど、CAP制が導入されて、ちょっと運が悪かったというか不満ですね。学校のせいじゃないですけど。できるならもっと履修したかったです。私、空きがあるのが嫌で、1限目と5限目とか必修があると、その間をすごく埋めたくて(笑)。せっかくなら全部埋めたい。授業のコマだけじゃなく、なにも予定のない日が嫌いで、土日もバイトを入れて、バイトがなかったら大学のサークルとか予定を埋めたい人なんです。教育実習も終わったので、次は教員採用試験に向けての勉強を進めようかな。

ー音楽も続けているんだよね？ ピアノはいつ頃から？

幼稚園のときからです。中学生になって習うことはやめてしまったんですが、小学6年生のときの担任の先生に、ピアノは続けたほうがいいよって言われたことがずっと心に残っていて、どんな形でも続けられたらいいなと。それで、名芸を選んだということもあります。

ー高校時代は？

高校では吹奏楽部に入ったので、基本的にはフルートを吹いていました。伴奏でピアノを弾くこともありました。先生についてしっかりとレッスンを受けるわけではないですが、一応、中高と音楽は続けていました。

ーそれで、教育と音楽で名芸を選ぶことになったと

まず、芸大に教育があることがすごく珍しいなと思いました。いろいろ教育学部を探していたなかで、やっぱり音楽を、ピアノとフルートを続けられたらいいなと考えて選びました。もちろん教育学部なので、がっつり音楽っていうわけにはいかないですけど、まあまあ思っていたとおりにできていますね。副科として、

名古屋芸術大学主催の「教育学部サマーコンサート」で「春を呼ぶ芸術フェスティバル」では、ピアノ、フルートの演奏を披露



08

教育学部

子ども学科 子どもICTコース 3年
山下華奏さん

小学校教員を目標に教員試験合格を目指しつつ、幼い頃から親しんできたピアノとフルートも続けており、音楽の楽しさを子どもたちにも伝えたいという。「春を呼ぶ芸術フェスティバル」や「サマーコンサート」などでも演奏を披露。また、絵本の読み聞かせボランティアサークル「こもれび」に参加。学内外のさまざまなイベントで活動を行う。



『子ども支援サークル「こもれび」』の活動の様子。学内の「にこにこワークショップ」や学外のイベントにも参加し、読み聞かせを行っている



教育学部主催による恒例の「サマーコンサート」にて。山下さんを含め、教育者を目指す学生がピアノ、声楽、フルート、エレクトーン演奏を披露



ミュージカルは生活の中心

-衣装の制作はなにがきっかけで始めたの？

アルバイト先がコンセプトカフェなんですけど、そのイベントの衣装を作ったことがきっかけで、衣装を作ってほしいという依頼が来るようになりました。コスプレの衣装とか、DMなどでもらった依頼に沿っているいろんなものを作っています。帽子とかアクセサリーとか。特に服作りを勉強したわけじゃないんですけど、趣味で作ったりしていました。市販のもので納得がいかなかったら、自分で作っちゃえてって思っ

-そうなんだ、すんなりできちゃうんだ

ものを作るのが好きで、なぜか立体認識とか展開図とか、すぐわかるんです。例えば、早着替えの衣装を考えると、ここをこうすると時間短縮できるよっていうのを頭のなかでぱっと組み立てて、だったらこういう型紙が必要だというのが浮かんでくるんですよ。立体も好きなんですけど、イラストを頼まれることも多くて、仕事として受けています。どちらかというと、絵の仕事のほうが多いですね。

-すごいね、なんでもできる。ミュージカルコースを選んだのは？

小学生のときに劇団四季の「美女と野獣」を観て、私も舞台上に立ちたいって思って、それからです。ミュージカルがきっかけで、9歳か10歳のときだったか、母親にお願いしてクラシックバレエを始めました。バレエを始めるには遅いんですけど、ミュージカルをやるなら必要だと思って。歌はもっと小さい頃からずっと好きで、父が沖縄出身ということもあって民謡をやっていて、歌の道に進みたいと思ったこともあったんですが、やっぱりミュージカルがどうしても捨てきれない。自分の生活の中心にあったものなので。

-生活の中心！？

ミュージカルをやっていたわけじゃないんですけど、ミュージカルのためにバレエを始めよう、歌を習おう、演劇部に入ろうとか、ミュージカルが好きだからこれをやろうみたいな考え方で生きてきました(笑)。

進学を決めるときは、絵に行くか、音楽に行くか、服飾もちょっと考えたりしたんですけど、やっぱりミュージカル。特にミュージカルは身体を使うので、身体を作らなきゃいけないし、できるだけ早いうちから鍛えておこうな

って考えたりもしました。絵や服は習うというより独学でやってきたので、課題としてやったり、学ぶという形を取るより、そのまま趣味として楽しみたいという気持ちもありました。

-ミュージカルを考えると、東京の学校という選択肢もあるじゃない？ どうして名芸？

東京でなくて、沖縄県芸は考えました。でも、ダンスは琉球舞踊なんかの沖縄の伝統芸能が中心で、やりたいことからちょっと離れているなど。絵を勉強するんだったら沖縄でもいいんですけど、やっぱりミュージカルです。ちゃんとミュージカルコースがある大学は愛知県には少なくて、名芸がいいなと思っていました。

-入ってみてどう？

こんなに上下関係が厳しいとは思っていませんでした。でも、すごく役立っていて、学校外の舞台に出させていただいたときも、一緒に出演する方から、礼儀正しいねとか、きっちりしてるねといわれ、ミュージカルコースはそうしたことも学べるんだなと思いました。

それから、憧れてきたミュージカルですが、そう簡単にできるもんじゃないという現実の厳しさもわかりました。バレエ、歌、芝居と別々にやってきたものを初めてひとつにするわけです。1年生のときにオーディションで本公演の主演を、すごくできる先輩とダブルキャストでいただいたんです。思うように身体が動かず、踊りながら歌うことがいかに難しいか思い知らされました。ぜんぜんできなくて、本当に毎日泣いていたんですけど、同期や先輩から学ぶことが多くて、ミュージカルとか音楽のことだけでなく、演者としてのあり方とかをすごく見せてもらったように思います。コースに入ってそういう人たちに会えて、いろんなことを学べたように思いますね。



依頼を受けての服作り。希望を聞いて、デザインを起こすところから。イメージどおりに出来上がっていることがわかる



09

音楽領域

ミュージカルコース 4年
山城歩希さん

歌とダンスはもちろん、絵画、衣装、アクセサリーなどの制作にも非凡な能力を見せる。舞台衣装、ヘッドドレス、帽子、その他小物まで幅広いアイテムを手作りし、その作品はミュージカルやイベントに使われている。衣装のほかにも、イラスト制作を仕事として受ける。ミュージカルコースの舞台衣装も手がけ、ミュージックエンターテインメント・ディレクションコースと協力し、早着替えの衣装を制作する。



高校時代、授業で描いた絵が大会で賞を受賞。以来、イラストの制作依頼が舞い込むように。絵画で美大に進もうかとも迷った。独学というからびっくり



「ザ・ベストテンコンサートXIV」では歌を披露。小さな頃から歌も習っていた

現代アートは 本当に自由



—レースやって、レースクイーンやって、現代アート？ どうして現代アートコースへ？

けっこう、なんとなくで入っちゃったんです。じつは、高校生のときに家庭内でいろいろとあって、家出してしまった時期があるんです。家に帰らなくなって、当然学校にも行ってない。それで高校を辞めさせられて、初めて母を泣かせてしまいました。これではダメだ、働かなきゃと思ったんです。それで、単発で働けたらいいなと、イベントコンパニオンの仕事がやりたくて事務所に登録したのがきっかけです。

—えっ、じゃあ高校は？

それが、高校は中退したんですけど、足踏みすることなく別の高校に変わって、ちゃんと卒業しました。その変わって入った高校が名芸の指定校で、推薦入試があったんです。指定校推薦の欄に現代アートって書いてあって、デッサンの練習をそんなにやったわけでもないし、デザインにしようかと思いましたが、学力が必要でテストがあるみたいを書いてある。ああ、無理だなと思って、現代アートを調べると面接だけ。じつは、面接だけだったんで入ったんです。

—いやいやいや、本当は現代アートがいちばん知性と学力が必要だぞ！（笑）。入ってみてどうだった？

周りの人がやっぱりめっちゃくちゃ絵がうまかったりして、ついていけないみたいな。1年生のファンデーションで、デッサンも油絵も、自分のセンスの無さに気がついちゃって、一時期すっかりやる気をなくしていました。2年生になったとき、秋吉先生（秋吉風人准教授）に出会って、自分の好きなことを生かして作ったらいいといわれました。クルマがすごく好きなんですけど、クルマに関連した作品を作ってみ

ました。講評があったとき、いろいろな人に見てもらって、こういうのを作っていったらいいと思うよって、初めて褒められて、そこでちょっと楽しいなって。2年生になってから思いました。

—クルマが本当に好きなんだ

はい。18歳で免許を取って、やっぱりスポーツカーだってトヨタのGT86に乗り始めて、サーキットへ連れていかれたんです。父の影響なんですけど、サーキットへ行くからついてきてって感じで。いったら走らせて、わりと早いタイムが出て、それなりに速く走れて。それからサーキットへ行くことが生活のルーティンみたいになったんです。そうしているうちに走行会に出るようになり、あるとき3位を取れたんです。そうしたら父に、国内A級ライセンスを取りに行こうといわれ、学校もあるし休みはないし、私には無理、嫌だといったんは断ったんですけど、経験としてやってみるのはいいかなと思い直して。免許を取って1年後くらいにはライセンスを取っています。

—お父さんに引き込まれたんだ。クルマに乗せられて、ドライバーになるように誘導されたみたいだね

私のうちが整備工場をやっていて、そういうこともあってですね。おかげで、うちにある要らなくなったオイル缶とかタイヤとか部品とかを材料にして作品を作っています。自分の好きなことや家庭環境をアートに結びつけて作品を作るようになって、作品を作ることがおもしろくなってきました。

—今後はどんな作品を作りたい？

これまで自分でなんとかできる規模の作品を作っていたんですけど、もっともっと大きなものを作りたいですね。例えば、エンジンとか、ふつう持ってるよと思っても持ってるじゃないじゃないですか。そういうものを生かして、ちょっと大きめのものを作りたいです。現代アートは本当に自由で、例えば洋画だったら、絶対にキャンバスと向き合わないといけないですよね。でも、現代アートは、絵でもいいし、オブジェでも映像でもいい。幅が広いというか幅がない。本当に飽きることがないんじゃないかと思えます。



10

美術領域

現代アートコース 2年
篠田奏心さん

現代アートコースの学生でありながら、趣味でレーシングドライバーとしてレース活動を行い、また、仕事としてレースクイーンとしても活躍する。18歳で免許を取得後、すぐにサーキット走行を始め、走行会での入賞を機に国内A級ライセンスを取得、本格的にレースに取り組む。アートとクルマ、自分らしさを模索する。クルマ好きで、愛車はGT86。バイト代の大半はガソリン代に消えると笑う。

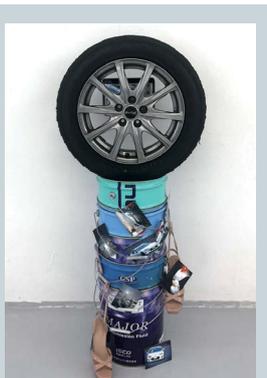


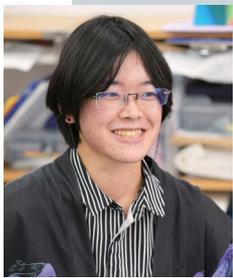
X



作品「マイオイル」。オイル缶と点滴棒を組み合わせたインスタレーション。点滴パックの中身はオイルで、きれいなパックには自分の生年月日が記されている。年代とともに汚れていく

クルマ関連のものを使い、自己を表した作品たち。オイル缶とタイヤに、ハイヒールのサンダルが組み合わされる。ハイヒールで遊んでいた頃の自分との関連づけがテーマ。サーキットの車載映像を作品に使うことも





まさか、マンガゼミが できるなんて

-マンガ誌の担当編集者が付いていると聞いたんだけど、どんな経緯で?

少年ジャンプに「学校課題投稿漫画賞」というのがありまして、美大や芸大の学生が課題で描いたものや過去に描いた作品を応募できる賞で、それで賞をいただきました。ほかにも持ち込みをして、ジャンプでは賞をいただき、マガジンでは編集さんとつながりました。今はサンデーに応募して、受賞はしなかったんですけど、ちょっといい感じになりそうなのでやり取りさせていただいています。編集さんにアドバイスを頂きながら、月例賞とかに出すために描いています。どこまでご存じかわからないんですけど、最近、イラストレーションコースにマンガのゼミができました……。

-えーっ、そんなのあるの! みんな隠れてマンガ描いてた感じだったのに!!

そうなんです。去年マンガを描くゼミができて、そのゼミの人たちで1年1冊は出そうみたいな感じになっているんです、編集さんにも見せられるようなやつを作ろうと。

-何人くらいゼミには出てるの?

始まったときは少なかつたんですけど、今年は下級生も入って、毎回ゼミのたびにマンガを出してくる人が4、5人、聴講だけしているみたいな人が8人くらい。ゼミに入っているかとはともかく、そこにいる人だけで言ったら20人くらいいますね、楽しい感じでやっています。

-そうなんだ! イラストに限らず、それこそ日本画でも洋画でも、マンガは先生に隠れて描いてますって感じだったじゃない

ですよねえ。自分も最初はそうでした。それが、谷川先生(谷川助教)がイラストレーションコースにいらっしゃって、みんな描きたいなら描こうよと人を集め、それで今はもうゼミとして盛り上がってきています。

-時代は変わってきたねえ。松原さんは、もともとマンガをやりたいかったの?

前から描いていて、マンガを描くために美大に行こうと思っていました。でも、そもそもマンガ学科ってこのあたりの大学にはないじゃないですか。京都まで行くことはできなかったし。芸大には、デッサンとか基礎を学びに来ようと思っていたので、ぶっちゃけイラストレーションコースじゃなくてもよかったんです!

-言っちゃった! (笑)

あと、デザイン。コマ割りとか、ちょっとデザインの要素が入っていると思うので、デザイン領域にしてもどこかなと。名芸には文芸・ライティングコースがあるじゃないですか。あそこもマンガを描きたい人がけっこういます。絵を描くこともですが、話を作る訓練も絶対したほうがいいから、文芸も気になっていました。イラストレーションコースは課題が多いとも聞いていたので、マンガを描く時間が取れないかもとちょっと悩みました。高校時代、シンプルに絵が下手だったので、とりあえずうまくなりたくて、いちばん絵がうまくなれそうなイラストレーションコースを選びました。

-入ってみてどうだった?

いや〜、周りにオタクしかいないんで、かなり楽しいです(笑)。コースごとに、カラーというか集まる人の傾向みたいなのがあるじゃないですか。イラストレーションコースはオタクが多くて、すごく気が合ってます。絵もちょっとはうまくなったような気がしますし、よかったなあと思っています。

-じゃあ、画力を上げるために芸大に入って、こっそりマンガを描こうと思っていただけ、マンガゼミもできて、そのあたりの感じは……

そうなんです。できると思っていなかったんで、いや、もう小躍りですよ。やったー、ラッキー!みたいな感じ。谷川先生とナカノ先生(ナカノ ケン准教授)がグイグイ来る系の人なので、うまく噛み合ったんじゃないかなと思います。今年入った後輩に、毎週ちゃんと名前を出してくる子がいて、先輩として負けてらんねえ、みたいな気持ちがわいてきて、かなり盛り上がってるんですよ。

動画漫画研究部(漫研)で作った同人誌に掲載の「メリーバッドクリスマス」(右)。この作品が、集英社主催「学校課題投稿漫画賞」にて努力賞を受賞。他作品「重い彼女」(下)など掲載の同人誌「DOUBLE SLASH」は、漫研の部室で読むことができる



デザイン領域

イラストレーションコース 3年
松原椿さん

作品が、集英社の少年ジャンプ「第1回学校課題投稿漫画賞」努力賞に選出され、マンガ家を目指し活動中。受賞には至らなかったものの、3誌のマンガ誌から連絡があり、月例の賞に応募するため新作の執筆に励む。動画漫画研究部の部長も務め、イラストレーションコースの課題、自分の作品、漫研同人誌の制作、加えて昨年からはマンガゼミが始まり、マンガ一色の日常を送る。Xハンドルネーム、ペンネーム「うおりんご」で活動中。



「うおりんご」(X)



モデル?ミュージカル? 悩んでいます



-モデルをやり始めたのはいつ?

高校1年のときに事務所に入ったんです。もともと僕の親の知り合いの娘さんがその事務所に入っていて、倫太郎君も興味あるんだったらやってみない?と誘われて、入れてもらいました。高校生でいろいろやってみたくて、じゃあ入ってみようかなと、軽い気持ちでした。高校ではダンス部に入っていました。なにか自分を表現したり、人の前に立てたくなかった、そんな気持ちが強くなってきて、でも、どうしたらいいかわからない。そんなときに声をかけてもらって事務所に入ったんです。高校時代は、Tシャツの宣伝モデルをやったり、ショップの広告モデルをやったりしていました。そうしているうちに、その事務所とかかわりのあったパリコレモデルの方がいるんですが、たまたまその方が名古屋でレッスンをやることになったんですよ。それで、高校3年とき初めての生徒として参加して、毎週レッスンを受けてきました。1年くらいレッスンを続けてきたところで初めてファッションショーに出て、それからモデルの活動が本格的に始まりました。

たんですけど、専門学校ではなく4年制大学で、ミュージカルや舞台も勉強できるってすごくいいなと思い選びました。入って授業を受けていると、音楽領域にポップス・ロック&パフォーマンスコースというポピュラー音楽系のコースがありますが、授業でそのコースと一緒にすることがあり、今度ライブがあるから見に来てとか、学校内で公演があるからとか誘われるんです。それで見に行っているうちにポップスもいいなと。最近のミュージカルだと、ミュージカルらしい曲調ばかりでなく、ポップスに近いものもあるように思えます。そういうときにカッコよく歌えたらいいかと思い、自分の将来やりたいことの幅が広がられるし、同じ大学内でミュージカルもヴォーカルも学べるって、そんな一石二鳥なことはふつうできないなと、2年になるときに音楽総合コースに変わりました。

-モデルやって、ダンスも続けて、ミュージカルとヴォーカル、将来はどうなっていきたい?

モデルもミュージカルも、どっちもやりたいという気持ちはすごく強いんですけど、今はモデルの仕事をもっと頑張りたいと思っています。器用にできたらいいなとは思っているんですけど……。

-どっちといわれたら、今はモデルということかな?なにが魅力?

昨年の12月に初めてファッションショーに出たことで、本当にうれしいことに、いろいろなショーのお話とか、撮影のお話とかをいただくようになり、もっとモデルの世界を知りたくなってきました。モデルのレッスンをしてくれている先生からも実際のパリコレのお話を聞くのですが、もうワクワクしてしょうがない(笑)。先生のお話を聞いていると、学生をやりながらパリコレを目指すのはとても難しいらしく、挑戦するなら、半年や1年は休学してフランスに行かないとダメみたいなんです。それを聞いて、言葉の問題だとかいろいろ難しいこともあります。すごく行きたいと思い始めていて、挑戦してみたいと思っています。でも、ミュージカルも、将来やりたいかと聞かれると、もちろんやりたいです!パリコレに挑戦してみたいし、ミュージカルもやりたい。本当に今、めちゃめちゃ悩んでいます。

-ミュージカルにも出てるよね?これは?

大学では初めミュージカルコースに入りました。大学1年のとき、「戦国ミュージカル『霸王の光』」という作品がありまして(福満薫講師も出演)、同期に縁をつないでもらって出演することができました。もう一作、四日市市で行われた「回転木馬」というミュージカルで、男性の出演者が足りないということで出させていただきました。

-ミュージカルコースに入ってミュージカルにも出演して、でも、今は音楽総合コース?

自分の好奇心でミュージカルコースに入っ

モデルとしてウォーキングのレッスンも受ける。念願のショーにも出演。モデルの活動も、自分を表現するものひとつ



「戦国ミュージカル『霸王の光』」「回転木馬」に出演した際のひとコマ



12

音楽領域

音楽総合コース 2年
石田倫太郎さん

高校時代からモデル事務所に所属、高校3年から本格的にモデルのレッスンを開始。大学1年で初めてファッションショーに出演。現在もブライダルモデルやファッション誌などでも活躍中。大学1年でミュージカルにも出演するなど、多方面で活躍中。



法人創立70周年記念事業

名古屋芸術大学 ホームカミングデー 2024

裏芸大祭



2024年11月2日(土)、法人創立70周年を記念した全学横断型の「ホームカミングデー 2024」を東キャンパスにて開催しました。天候は終日、雨模様、生憎の天気となりましたが、小さな子どもを連れた卒業生が多く訪れ、和やかな一日となりました。

今回のテーマは「音楽」。昨年度は、2月の卒業・修了展に合わせて西キャンパスでの開催でしたが、今年度は芸大祭に合わせて開催されました。このイベントのもうひとつのテーマは「裏芸大祭」。学生時代の「あの頃のノリ」も飛び出す楽しいイベントとなりました。

東キャンパス各所では、卒業生の作品を販売する「アートマルシェ」や、演奏会やダンス、ミュージカルのミニ公演が楽しめる「名芸おんがくフェス」などが催され、

「ファミリーふれあいコンサート」と題したオーケストラ演奏会では、会場の子どもたちも指揮体験ができるとあって、にぎわいを見せました。

ランチで人気となったのが、豚の丸焼き。炭で焼くところから、誰もが興味津々。大きな串を回す手伝いをしたり、一緒に記念撮影をしたり、焼き上がる前から熱気を帯びていました。出来上がりには長蛇の列ができ、パンズやトルティーヤではさんでいただきました。本格的な味に、子どもたちも大いに満足の様子でした。

夕刻には卒業生懇親会が行われ、卒業生や現役学生との交流、久しぶりの恩師との再会に盛り上がりました。そして、最後にはビンゴ大会が催され、豪華な賞品に歓声が上がりました。番号が呼ばれるたびに一喜一憂、いつまでも笑い声が絶えませんでした。

地域・社会連携部 奥村賢史



このイベントは、卒業生が大学に再び目を向け、母校との結びつきを再確認する機会として企画・実施いたしました。

多くの卒業生、在学生、また、地域住民の方々にもご参加いただきうれしく思います。

今回のイベントは、比較的若い世代の卒業生向けに企画し、小さなお子さんのいる家族で楽しめるものとして、教員や卒業生によるファミリー向けの演奏会や楽器体験コーナー、子どもコミュニティーセンターでは教育学部学生による絵本の読み聞かせを行いました。また、10名の卒業生アーティストが出店したアートマルシェでは、アクセサリーや書籍、キーホルダーが並び、盛況となりました。

参加いただきました卒業生の皆様をはじめ、数万人の同窓生の皆様には、今後ぜひ大学のイベントなどに気軽にご参加いただき、名古屋芸術大学の発展を一緒に見守っていただけたら心強く思います。

名古屋芸大サポーターズクラブ、名古屋芸大コネクトについて

名古屋芸術大学の地域・社会連携部では、従前の寄附事業であった「夢サポート募金」のリニューアルを行い、「名古屋芸大サポーターズクラブ」という寄附プログラムを展開いたしました。寄附メニューを多岐にわたって用意して支援者の多様なニーズに対応できるようにし、卒業生が「自分ごと」として参加しやすい仕組みとしました。また、寄附者への感謝の意を示し、支援の成果を具体的に報告することで、卒業生や支援者が寄附の意義を実感できる仕組みも整えました。この取り組みは、大学と卒業生のつながりを強化し、教育や研究への寄附の意義を広める役割を果たすものと考えております。

本学の同窓会組織は美術・デザイン、教育（人間発達）、音楽・芸術教養・舞台芸術の三つに分かれており、それぞれが完全に独立しているため、

従前は大学全体で同窓会に類する催しが行われることはありませんでした。そこで当部が所管して、2024年2月に学部や領域を限定しない初の大学全体横断のホームカミングデーを実施しました。結果として参加者から非常にポジティブな感想を頂き、十分に手ごたえを感じさせるものでした。そこで満を持して芸大祭の時期に合わせて実施したのが、今回のホームカミングデーになります（15ページの記事参照）。

そして、その申込窓口としてサービスを開始したのが「名古屋芸大コネクト」です。卒業生、在学生、教職員がオンラインで交流できるコミュニケーションプラットフォームです。さまざまな意見に触れられ、新たな挑戦や機会を創出する新しい人間関係を広げるツールとして、また卒業生、在学生、教職員間におけるさらなる絆を紡ぐツール



名古屋芸大サポーターズクラブ



名古屋芸大コネクト

として活用していただきたいと思います。

今後は、在学生の社会参加やフリーランスで活躍する卒業生の活動をサポートする本学独自のクラウドソーシング事業の立ち上げも計画しており、ますます本学と卒業生との絆を深め、本学のメリットだけでなく、卒業生との相互の発展、ひいてはさらなる社会貢献を目指した支援の輪を広げてまいります。

2023年度(令和5年度) 名古屋芸大サポーターズクラブ活動状況

皆様からの温かいご声援を受け、名古屋芸大サポーターズクラブ2023年度の寄附金総額は、3,330,127円となりました。

皆様の深いご理解とご協力に感謝し、厚く御礼申し上げます。

- 募集期間：2023年（令和5年）4月1日～2024年（令和6年）3月31日
- 寄附金総額：3,330,127円
- 寄附金の使途別状況 [2024年（令和6年）3月31日現在]

1 一般寄附(名古屋芸大サポーターズクラブ募金)

寄附金の使途		寄附金額
1	学生に対する奨学金	74,000円
2	音楽活動支援事業	4,000円
3	制作活動支援事業	4,000円
4	芸術的素養習熟支援事業	4,000円
5	子ども教育活動支援事業	4,000円
6	名古屋芸大生キャリア支援事業	4,000円
7	グローバルな学生を育成するための学生企画の支援	4,000円
8	その他、学生支援の充実を図る事業	945,000円
合計		1,043,000円

【寄附者について】

ご寄附いただいた方は、5名、9法人です。

○ご芳名(50音順、敬称略)

個人：高橋 哲司

法人：株式会社川本舞台照明、株式会社ワット、合同印刷株式会社、笑屋株式会社、日本建設株式会社名古屋支店、富士工管株式会社、三谷商事株式会社情報システム事業部中部支店

○ご芳名公表辞退

個人：4名／法人：2団体

2 名古屋芸術大学 楽団・合唱団 賛助会員 820,000円

3 名古屋芸術大学 クラウドファンディング

プロジェクト名	寄附金額
オペラという文化を届けたい!! という学生の想いを届けさせてほしい!	215,000円
より質の高い吹奏楽の学びを小中学生に届けたい!	683,000円
映像でNPOの国際協力活動を支援! 開発途上国の人たちに安全な水を	124,000円
ARTの力でPOLIOを根絶させる。その一歩を。	265,000円
「学外」演奏会でもっと多くの方にサクソフォンの魅力を届けたい!	119,000円
合計	1,406,000円

4 寄附自動販売機 41,237円

5 リユース寄附 19,890円

名古屋芸大サポーターズクラブの詳細はこちらをご覧ください >>> <https://nua-supportersclub.com/>



表紙について

表紙にあしらわれたマンガの作者(13ページ)も参加するマンガゼミ。毎週、西キャンパスU棟2階で行われ、侃々諤々の論議、ゲストの登壇や講評会も。イラストレーションコースの学生を中心に盛り上がるも、担当する谷川司助教は、「マンガ好きなら、ぜひコース関係なく参加して!」とのこと。



発行：名古屋芸術大学
企画・編集：広報部
デザイン・協力：くまな工房一社
印刷：株式会社クックス
発行：2024年12月

【お問い合わせ先】
名古屋芸術大学 広報部
〒481-8503
愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地
電話 0568-24-0318
FAX 0568-24-0369



※記事中のホームページアドレスは、掲載先の諸事情で移転や閉鎖されている場合がございます。あらかじめご了承ください。